

着ている服に火がつく「着衣着火」に注意！

火のあるところのすべてに注意しましょう！

コンロやストーブ、ろうそくの火が衣服に燃え移ることを「**着衣着火**」といいます。冬は特に厚着をしていて着衣着火に気づかず、大きな事故となる場合がありますので注意しましょう。

一番多いのは、料理中にコンロの火が袖口について火傷を負ったという事例です。

火災事例

- ・厚着をしてストーブにあたっていたため、ストーブの火がついたことに気づくのが遅れた
- ・調理中、ガスコンロの向こう側の鍋を取ろうとして袖口に火がついた
- ・仏壇の掃除中、ろうそくの火が袖口についた
- ・たばこの火が落ちて、ズボンに火がついた
- ・たき火の火が衣服に燃え移った

※上記事例の中には、**着衣着火により死亡されたものもあります**



表面フラッシュ現象について

わずかな炎の着火で瞬間的に衣類の表面を火が走る現象を「**表面フラッシュ現象**」といいます。タオルのような起毛されているパイル地などは、生地が空気を含んで燃えやすい状況のため、いったん着火すると一瞬のうちに燃え広がり火傷になる可能性が高くなります。袖に着火することが多いですが、見えない部分から燃え出すと発見が遅れて命の危険にさらされます。

もしも「着衣着火」してしまったら

着衣に火がついた場合、手で叩いても消すことは困難です。あわてず、すぐに水をかけてください。火傷を負ってしまったら、流水で冷やし、必要なら救急車を呼んで下さい。救急車を待っている間も流水で冷やし続けましょう。

また、近くに水がない場合は、走り回らず、燃えているところを地面に押しつけるようにその場で倒れ込み、転がって消火してください。

着衣着火を防ぐには

- ・燃えにくい素材の衣類である「**防災製品**」を使う
- ・身体にフィットするエプロン・腕カバーを着用する
- ・ガスコンロの奥に料理道具や調味料を置かない
- ・マッチやライターを子どもの目に付かない場所に保管する
- ・鍋やフライパンから炎がはみ出るような火力にせず、適正な炎の大きさにする

